

■(大蘇)月岡芳年 つきおかよしとし 蜚社の獄・・・1839＝	浮世絵師。明治初頭、凄惨な表現を極め、妖怪画を描くなどして、江戸浮世絵の最後を飾った。 江戸新橋南大阪町で、商家吉岡兵部の次男に生まれる。幼名米次郎。
阿部正弘首座1845＝ 6歳：	
・・・・・・1848＝ 9歳：	父のいとこ薬種南京屋織三郎の養子となったらしく、
国定忠治磔・・・1850＝11歳：	「歌川国芳」に入門。写生の才があって、期待され、
ペリー来航・・・1853＝14歳：	「画本実語教童子教余師」に吉岡芳年の名で最初の挿絵を書き、錦絵処女作「文治元年平家一門海中落入図」を一魁斎芳年の号でを発表。
蕃書調所・・・1857＝18歳：	
安政の大獄・・・1859＝20歳：	この年、歌舞伎役者の中村翫福を描いたものがあるので、それ以前に、上方に旅したらしい。
桜田門外変・・・1860＝21歳：	*すでに門人がおり、本格的な画業開始。
遣欧使節・・・1861＝22歳：	師歌川国芳が死去。葬儀の場で兄弟子芳幾に足蹴にされたという。
生麦事件・・・1862＝23歳：	狂言に取材した役者絵を多数刊行、
8月18日政変 1863＝24歳：	将軍家茂の上洛に伴い、東海道を主題とする錦絵を刊行。「曝首図」で本領を発揮し始める。
禁門の変・・・1864＝25歳：	幕府の長州征伐を源平及び太平記に擬した武者絵を多数刊行。これ以前、清元の師匠の娘と結婚、
薩摩藩士密航1865＝26歳：	誕生1年あまりの娘が死去。菊池容斎{前賢故実}を学んでか、祖父の弟雪斎の月岡姓を使い始め、{歳盛記}の人気番付に十位でランクインも、まだ、兄弟子の落合芳幾の後塵を拝していた。
薩長同盟・・・1866＝27歳：	*殺気立つ世相に対応し、芳幾と競作で、“血みどろ絵”の初作にして代表作「英名二十八衆句」を敢行。
大政奉還・・・1867＝28歳：	芳幾ら10人の浮世絵師とともに、肉筆浮世絵画帖を作成、パリ万国博に出品される。
明治維新・・・1868＝29歳：	{歳盛記}番付で芳幾に次ぐ四位。弟子を連れて、上野の戦いを裸で見に行き、「魁題百撰相」などを描く。
戊辰戦争終・・・1869＝30歳：	この頃までに「東錦浮世稿談」などを発表し、
学問のすすめ1872＝33歳：	「自信作「一魁随筆」のシリーズの不評にショックを受け、強度の精神衰弱に陥るも、
明治6年政変 1873＝34歳：	立ち直り、新しい蘇りを意図して、号を「大蘇」に変える。
佐賀の乱・・・1874＝35歳：	錦絵の人気の沸騰で、6枚つなぐりの「桜田門外於井伊大老襲撃」を発表すると、飛ぶように売れ、
初の民間工場1875＝36歳：	芳幾に対抗すべく、当時の事件を錦絵に仕立てた「郵便報知新聞錦絵」を開始。
西南戦争・・・1877＝38歳：	西南戦争が勃発すると、他の浮世絵師と同様、想像で、錦絵を多数制作。宮内省下命の絹本など、肉筆画による全く異なる作品も制作している。
大久保暗殺・・・1878＝39歳：	歴史画シリーズ「大日本名将鑑」が大ヒットするも、女官に囲まれた天皇描く「美立七曜星」が厳重注意。
・・・・・・1880＝41歳：	根津宮永町に移転した際、内藤家手伝い女性の姪・坂巻泰と出会い、まもなく同棲。美人画多数刊行。
明治14年政変1881＝42歳：	
新体詩抄・・・1882＝43歳：	第一回内国絵画共進会に出品。「{絵入自由新聞}から招聘され、月給百円、人力車つきで入社、
岩倉具視没・・・1883＝44歳：	「根津花やしき大松楼」に描かれている幻太夫との関係も生じるが別れ、
秩父事件・・・1884＝45歳：	坂巻泰と正式に結婚する。「{自由灯}」に挿絵を描いて、「{絵入自由新聞}」を退社。
内閣発足・・・1885＝46歳：	*代表作「奥州安達が原ひとつ家の図」などによって、ついに「東京流行細見記」人気番付で首位になる。
帝国大学始・・・1886＝47歳：	シリーズ「堅二一番」は、第一番「文覚荒行」から評判良く{自由灯}の紙価を高からしめた。掛物絵判作品のうち「奥州安達ヶ原ひとつ家之図」と「田舎源氏」は発禁処分。その後、没するまで続けた最大シリーズ「月百姿」をはじめ、「大日本名将鑑」「大日本史略図会」「新柳二十四時」「風俗三十二相」「新撰東錦絵」など、浮世絵色の脱した作品を作り、弟子たちを他の画家に送り込んで様々な分野で活躍させるが、不安になってか、
国民之友始・・・1887＝48歳：	{やまと新聞}の創刊に伴って入社、三遊亭円朝の語る人情噺の口述筆記挿絵と月極附録の錦絵を担当。
帝国憲法発布1889＝50歳：	千歳座「梅春俠客御所染」で御所五郎蔵の衣装をデザインして評判。この時までに二百余人の弟子がいた。(東陽堂)で当時の十二大家を集めて一双の屏風を製作した際、その一人として「赤壁の山水」を描き、唯一の花鳥画作品「藤下鯉魚」とともに、「四条派風の筆致を見せるなど、本業に帰帰、最後になるシリーズ「新形三十六怪撰」の刊行を開始、
帝国議会始・・・1890＝51歳：	最晩年の役者絵シリーズ「雪月花」ほか大判三枚続の役者絵を刊行。
大津事件・・・1891＝52歳：	*酒のために体が蝕まれ、再度神経を病み、目を悪くし、脚氣も患う。また、現金を盗まれるなど不運が続く。錦絵「金太郎くらびらき」を最後に、巢鴨病院(のちの松沢病院)に入院、小松川逆井脳病院へ転院、
大本教・・・1892＝53歳：	医師に見放されて退院し、本所藤代町の仮寓で、脳充血のために没した。